

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400963		
法人名	有限会社 トリノ		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	〒041-0812 函館市昭和町3丁目29番47号 (電話) 0138-62-2246		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月14日

【情報提供票より】 (平成21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 5月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄板 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000円	その他の経費(月額)	28,000~36,000円
敷金	有()円 <u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 <u>無</u>	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300円	昼食 300円	
	夕食 350円	おやつ 300円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	1名	要介護2	6名
要介護3	3名	要介護4	6名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 83.2歳	最低 68歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀田病院、平田皮膚・泌尿器科、吉田眼科、としま整形、上田歯科、五十嵐内科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、函館市の北部の閑静な住宅街の中にある。事業所の玄関横に家庭菜園用の畑がある。事業所のフロアは、笑顔あふれる利用者の写真を掲示しており、明るく清潔感がある。管理者と職員は、利用者の意向を大切に、利用者本位の支援を心がけている。家族会が活発に協力しており、内部研修の講師や運動プログラムの指導、昼食会などに参加している。また、気軽に訪問できる雰囲気のある事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点である、地域とのつきあいは、七夕まつり、敬老会、花火大会等の事業所の行事に、近くの保育園の園児や大勢の地域住民が参加しており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各ユニットごとに全職員で検討し作成している。管理者と職員は、自己評価を日々のケアの振り返りや反省点の機会と捉えて、改善に向けて話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会館で2ヶ月ごとに開催している。事業所は行事内容や評価結果を報告し、家族会から出された意見や要望などについて話し合っている。また、行政関係者と情報交換をして、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来訪時に気軽に話せるような雰囲気づくりをしており、お茶を飲みながらの会話や、家族会の集まりで話し合いなどを通じて、意見や要望、アイデアを聴き、ミーティングで全職員が話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	七夕祭りや敬老会に、近くの保育園児が大勢訪れ、お遊戯や歌を披露したり、プレゼントの交換などを行っている。町内会の盆踊り大会では、職員と利用者が一緒に踊っている。また、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流は活発である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年にこれまでの理念を見直し、笑顔の絶えない、ぬくもりのある暮らしの提供を柱に理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を見直し、検討して作成している。ネームプレートの裏に理念を記載し、ミーティングの時に唱和して、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	七夕祭りや花火大会、敬老会には、大勢の保育園児、地域住民が参加している。町内会の盆踊りには、利用者と浴衣姿の職員が一緒に踊ったり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流は活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者は、評価の意義を理解しており、全職員での理念の共有化やケアの振り返りとして改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに町内会館で実施し、行事内容や評価結果を報告している。地域の参加者からは町内会行事の説明、家族会からは意見や要望が出され、行政からの参加者とは情報を交換するなど、幅広い議題を協議し、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健所や地域包括支援センターとは、介護保険の改正、運営に関する質問や研修会などの情報を得るために、常にメールで連絡しあうなど、連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月ごとにホーム便りを発行して、利用者の暮らしの様子を家族等へ知らせている。また、金銭出納簿をコピーし、領収書を添えて毎月家族に報告して、確認印をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に話せる雰囲気作りをしている。お茶を飲みながらの会話の中から、意見や要望、アイデアを聞き取るように努め、出された意見等は、ミーティングで全職員で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、馴染みの関係を築き支援している。運営者は職員に担当を決めて責任感を与えたり、管理者は常に職員の話をお聴くことに努めるなど、離職を抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間でシフトを調整し合い研修会に参加し、介護福祉士などの資格を取得の取り組みも支援している。内部研修は、家族の体験事例の発表や外部評価、口腔ケアなど、議題を工夫し、家族会も参加して実施している。研修会参加者は、会議の中で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム道南ブロック協議会の同業者と、研修会や茶話会の中で、情報交換や体験事例の意見交換をしたり、新人研修の勉強会を実施するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者は、本人と家族が事業所を見学してもらい、病院からの利用者には職員が面会に出向くなどして、顔馴染みの関係を築いてからサービスを開始している。事業所の雰囲気慣れるまでは、家族や職員間で話し合いを行い支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩と思って接し、できるだけ自然体で普通の生活をするように努めている。また、調理を利用者から学ぶなど、支えあう関係をつくっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声がけをするなど利用者の思いをくみ取るようにしている。意志の疎通が困難な利用者には、表情や仕草で意向を把握したり、家族からの情報を得るなどして、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議に家族も参加して、職員と一緒に課題やケアについて意見交換をしている。会議に参加できない家族には、面会時に相談したり、電話で意見を聞くなどして、一人ひとりにあわせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的には3ヶ月ごとに見直しているが、状態に変化が見られたときは、家族やかかりつけ医と相談して、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望で、通院支援や自宅訪問の送迎など、一人ひとりにあわせた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望で従来のかかりつけ医の受診は可能であり、訪問診療も受け入れている。複数の協力医療機関と連携を密にして、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時に看取りについて家族に説明しているが、ターミナルについては、全職員で方針を共有するまでには至っていない。	○	看取りの経験がない事業所であるが、看護師や協力医と連携し、内部研修の課題に取り入れるなど工夫して、職員と方針を共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、事務所内のロッカーに施錠して適切に保管している。職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の仕方を勉強会等で学び、実践に活かしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間の目安はあるが、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。天気やその日の体調を見極めて、希望により散歩や買い物など、臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者のできることで、できないことを見極めながら、利用者と一緒に夏場は家庭菜園から野菜を収穫して食材にしたり、献立を考えたり、食材の買い出しを行ったりしており、楽しい食事ができるように取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間以外は、利用者の希望により自由に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日が楽しく過ごせるように、利用者の得意分野を把握し、家庭菜園での野菜づくりや洗濯たたみ、家族と一緒にバーベキュー、買い物など気晴らしの支援している。全職員は利用者へ感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、回転寿司や、近くの大浴場での入浴、買い物など利用者の希望に沿って外出支援をしている。また、季節に応じて遠出のドライブをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠はしていない。玄関の戸の内側に、メロディーの流れるセンサーを設置しており、利用者の外出の傾向を把握して対応している。夜間は、防犯のために鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と事業所の防災委員会で訓練を計画し、避難訓練を実施している。職員は日々、火事を出さないことに注意をし、ミーティングで確認しあっている。また、地域住民に声がけをして参加を依頼している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の高齢者配食サービス事業所の栄養士が、月1回、栄養のバランス等を考慮し、献立の指導をしている。水分摂取は、一人ひとりの状況に応じて、1日1,200ml～1,500mlを確保し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はバリアフリーが完備しており、各フロアーには季節の花や小物を飾っている。音や採光にも配慮してあり、居心地良く過ごせるように工夫してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して、タンスや仏壇、冷蔵庫などの日用品を自宅から持ち込んだり、家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるように工夫してある。		

※  は、重点項目。